誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

国語の文章問題の苦手克服法

早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田　貴一

「国語のテストではいつも時間が足りなくなる」というお子様がいます。こういったお子様の多くは、「自分は文章を読むのが遅いから時間が足りなくなるんだ」と感じて、急いで読もうと努力します。しかし、「時間が足りなくなる」原因は、実は別のところにあることが多いのです。今回は、文章問題の苦手克服法について、ご家庭でも取り組めるポイントをお伝えします。

「読むスピード」「解くスピード」

国語の授業で、生徒たちの「読むスピード」を試すことがあります。「急いで読まなくてよいから、丁寧にしっかりと読むこと」と説明し、読み終わったところで手を挙げさせるのですが、このとき手が挙がる順番は、国語の成績順ではありません。次に「解くスピード」を確かめます。全員が読み終わった段階で同時に解き始め、終わった生徒に手を挙げさせると、「読むのが速かった生徒」と「解くのが速かった生徒」はほぼ逆転、といっていいほど全く違う結果となります。国語の文章問題では「読むスピード」と「解くスピード」は一致せず、速く読み終わる生徒にはむしろ、国語が苦手な生徒が多いのです。

国語のテストで時間が足りなくなる生徒の場合、「解くスピード」の方が原因となっていることが多くあります。しかし、自分では「読むのが遅いからだ」と思い込んでいるため、とにかく急いで読もうとします。すると、ただ文章を目で追いかけるだけになってしまい、内容がほとんど頭に入ってきません。設問を解くときにまた文章に戻ってイチから考えなくてはならないため、結果として「解くスピード」が遅くなってしまうわけです。

「空欄補充問題」でチェックする

文章全体の内容が頭に入っていないと、「解くスピード」が遅くなるのに加えて、正答率も低くなってしまいます。選択問題で見当外れなものを選んでしまったり、記述問題で「表面的な浅い記述」になってしまったりするわけです。

なかでも大きく影響するのが「空欄にあてはまる本文中の語句を答えなさい」というタイプの「空欄補充問題」です。このタイプの問題は、まず「こんな内容の言葉が入るはず」と推測し、「確か本文のあのあたりにそういう言葉があったはず……」と考えて探し始めるのが、正しい思考の筋道です。

しかし、「文章が頭に入っていない状態」だと、1つの言葉を探しながら長い本文の始めから終わりまでをウロウロすることになってしまいます。文章内容が理解できていない、ということは「探すべきもの」のイメージすらできていない状態なわけですから、そう簡単に見つかるはずはありません。制限字数だけを手掛かりに探し、偶然マルがつくことがあるかもしれませんが、それは正しい筋道をたどった正解とはいえません。テストの後にお子様が「空欄補充で時間がかかった」と言ったり、返却されたテストの「空欄補充問題」に空欄が目立ったりする場合は、「文章が頭に入っていたかどうか」をチェックしていただくとよいでしょう。

「いくつの場面に分けられるかな？」

ご家庭でも実践していただける、「文章内容が頭に入っているか」をチェックする方法をご紹介します。お子様が文章を読み終えたところでテキストを閉じさせて、内容に関する質問を重ねていく、という方法です。物語文であれば、登場人物、人物同士の関係などから始めて、「いくつの場面に分けられるかな？」といった質問で場面構成を確認していきます。説明的文章の場合は、「何について書いてある文章だった？」という質問から始めて、文章のテーマ（話題）をつかめているか確かめます。ツバメの生態を具体例にして、生物全体の環境について書かれている文章の場合など、「ツバメについての文」という答えが返ってきたりもするのですが、それをきっかけに「具体例」と「結論」についての文章構造理解につなげていくこともできます。よろしければ、ご家庭でもお試しください。

「対症療法」よりも「原因療法」

「テストで時間が足りなくなるから、文章を急いで読む」という考え方は、「対症療法」的な考え方といえます。医療の場合は「対症療法」が効果的なこともあると思いますが、学習においては、「対症療法」はあまり効果的ではないと考えています。「時間が足りなくなる要因」「文章理解が十分ではない要因」をしっかりととらえて、その原因を改善していくという「原因療法（根治療法）」こそが大切です。

私は、生徒が文章問題を読んでいるとき、解いているときには、生徒の「目の動き」と「手の動き」を見るようにしています。「文章をどれくらいの速さで読んでいるか」「問題を解くときに文章のどのあたりに目をやり、どのあたりに線を引こうとしているか」といった点を、「目の動き」「手の動き」から把握しているわけです。算数の場合は、思考過程や解答を出すまでの処理方法はノートに残りますので、「手の動き」だけでわかります。しかし国語の場合、思考過程までは解答用紙に残りません。特に選択問題をどのように選ぼうとしているかは、「目の動き」を見るのが一番効果的なのです。それぞれの選択肢をどれくらいの速さで読んでいるか、どの選択肢のどこに印を付けているか、本文のどこを読み直して考えているか、もしくは本文には目をやらずに選択肢だけで選ぼうとしているか……。そんなところを気にしながら、生徒を見ています。ご家庭でも、国語の文章問題を解いているお子様の「目の動き」に注目していただければと思います。

ブログ　福田 貴一の 四つ葉cafe　公開中！

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。
早稲田アカデミー 教育事業本部 副本部長　福田 貴一

著書に『中学受験　身につくチカラ・問われるチカラ』（新星出版社）。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー　検索
左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンのみ対応